

## [1] PG type-DIY 誕生のきっかけ

私は、趣味で（当然、無料です）高校生に英語を教えている54のオヤジです。通って来る子供たちは、毎週土曜日に database 4500 などのボキャビル本に搭載されている1万個ぐらいの短い例文の音読和訳を中心に、年間で延べ3万センテンス程度を消化しています。

このトレーニングを中心とした学習で、2006年のセンター試験では、7名中6名がリスニングを除く筆記試験のみの得点で160点を超え（最高が189点）、2007年のセンター試験では、3名中2名が、筆記のみで190点を超えることができました。

子供たちは、週1回の音読和訳トレーニングの他に、自宅のPCにP-Study System（以下PSSと略します）というフリーソフトをインストールして、私が作成したコンテンツを使って、高速で「キーフレーズ4択」問題を解いています。

「キーフレーズ4択」方式を採用しているのは、おそらく、PSSのユーザーでも、私ぐらいだと思いますが、具体的には、以下のような使い方です。

下記のような問題画面が表示されると同時に、ヒント欄に表示されている英文の音声（フルセンテンスです）が流れるように設定しておき（通常、ヒント欄は閉じています）、英文の音声聞き取れた（理解できた）段階で、問題のフレーズに対応する和訳の「番号を打鍵」という方法です。

PCの画面上で読む文字をできるだけ少なくし、かつ、選択肢を日本語にすることでトレーニング効率が飛躍的にアップすることから、この方法を採用しています。

子供たちの反応速度を見ていると、選択肢が英語のときの5倍以上のスピードで消化しているのではないかと思います。

見本の画面に表示されているフレーズは、彼らが通っている高校で採用されている database 4500 のフレーズですが、市販されていないはずの「例文CD」が、学校専用教材として販売されていることから、子供たちは、1800個以上の例文のフルセンテンスの音声聞きながら、高速で4択のトレーニングをやっています。

The screenshot shows the P-Study System interface. At the top, the window title is "4500NEW/4500NEW-08 - P-Study System". On the left, there is a sidebar with a cat icon, buttons for "初回", "再", and "確認", and a table showing "出題数 20" and "残り問題数 18". Below that is a table with "今回" and "累計" rows, and "O" and "X" columns. A "GiveUp!" button is also present. The main area displays the question: "英語に対応する日本語をえらぼう！" with a "Native Speaking" button. The phrase "out of stock" is shown in large blue text. Below it are four options: 1. 一時的な、臨時の, 2. 的外れの、見当違いの, 3. 在庫切れの, 4. 食欲. A "ヒント" section contains the text: "The band's new CD is now out of stock. そのバンドの新しいCDは現在在庫切れです." At the bottom, there is a "進行状況" progress bar, "EXIT" and "OK" buttons, and a row of utility buttons including "3文字ワット", "Lengthワット", "編集(E)", "2つ再読込", "2つ変更", "問題一覧", "発音(現在)", "発音(前)", "PDIC", "設定", and "検索".

(余談ですが、database 4500 が指定教材になっていない学校の子供たちには、指定教材になっている学校の英語科の先生にお願いして、例文 CD を取り寄せて頂いた上で、書籍本体と一緒に無償配布して、著作権侵害にならないようにしました。例文 CD をまとめて 30 セットも買ったので、まだ半分残ってます。)

しかし、この「キーフレーズ 4 択」方式によるトレーニング方法は、センター試験や TOEIC テストのような客観式の試験では威力を発揮するのですが、個別の大学の 2 次試験で実施される英作文のようなアウトプット型の試験対策には不十分です。

そこで、PSS のカードモードを使って、いわゆる「瞬間英作文」トレーニングができるコンテンツを試作したのですが、カードモードの場合、「覚えた／覚えていない」という余分な操作が必要だったり、「問題表示／解答表示」ボタンに focus が設定されている関係で、[Space キー]を音声再生に使うと、音声を再生する度に「問題」と「解答」が交互に表示されてしまうため、本来の音声再生キーである[F8 キー]で音声再生をしなければならず、無駄な動作が必要となって、サクサクと快適には使えませんでした。

そんな状況下で、PG type に自作のコンテンツが搭載できないかと思い、PG さんにお問い合わせのメールをお送りしたのが、8 月上旬でした。

## [2] 最初のコンテンツはシステム英単語

前述のような事情の概略を書いたメールを PG さんにお送りしたところ、あっと言う間に試作品を送って頂きましたので、早速、システム英単語をコンテンツ化して打鍵テストを始めました。

勉強に通って来ている子供たちの半分は、学校で database 4500 を使っていますが、残りの半分の子供たちの学校では、システム英単語が指定教材として配布されていたことから、フレーズごと丸暗記できるシステム英単語をコンテンツ候補として考えた訳です（でも、これをコンテンツにして配布するときは、持ってない子に本と CD を買ってやらんといかんで、頭が痛い.....)

そして、打鍵テスト直後にお願いした改訂は、文字を大きくすることでした。何しろ、メインのコンテンツとして使用する予定の「システム英単語」は、下の画面のようなミニマルフレーズで、ALL IN ONE のような長いセンテンスではないからです。



このお願いを PG さんは あっという間に叶えてくれました。  
文字サイズがユーザーの好みに応じて拡大縮小できるようになったのです。  
しかも、「打鍵の途中で」文字の大きさを拡大縮小できるという優れものの  
機能です。わざわざ設定画面を開かずに、打鍵中に文字の大きさが変更できる  
というアイデアは秀逸です。彼は中々のアイデアマンですよ。  
(この改訂のときは、PG さんに徹夜をさせてしまったような気がします)

### [3] 瞬間英作へのステップとしての「穴空き英作」

もともと、システム英単語をコンテンツとして選んだのは、大学受験を控えて  
短時間で 5000～6000 語レベルのボキャビルをしなければならない子供たちには、  
「えいご漬け」型のディクテーションソフトを打鍵している時間的な余裕がない  
からなのですが、シス単のミニマルフレーズといえども、やはり打鍵には時間が  
かかります。

そこで、打鍵によるディクテーションとは別に、口頭による「瞬間英作」機能  
がどうしても欲しくなります。

PG さんあてに、「瞬間英作モードが欲しい」と何度かメールを送りましたが、  
しっくりするアイデアが浮かばなかったようです。

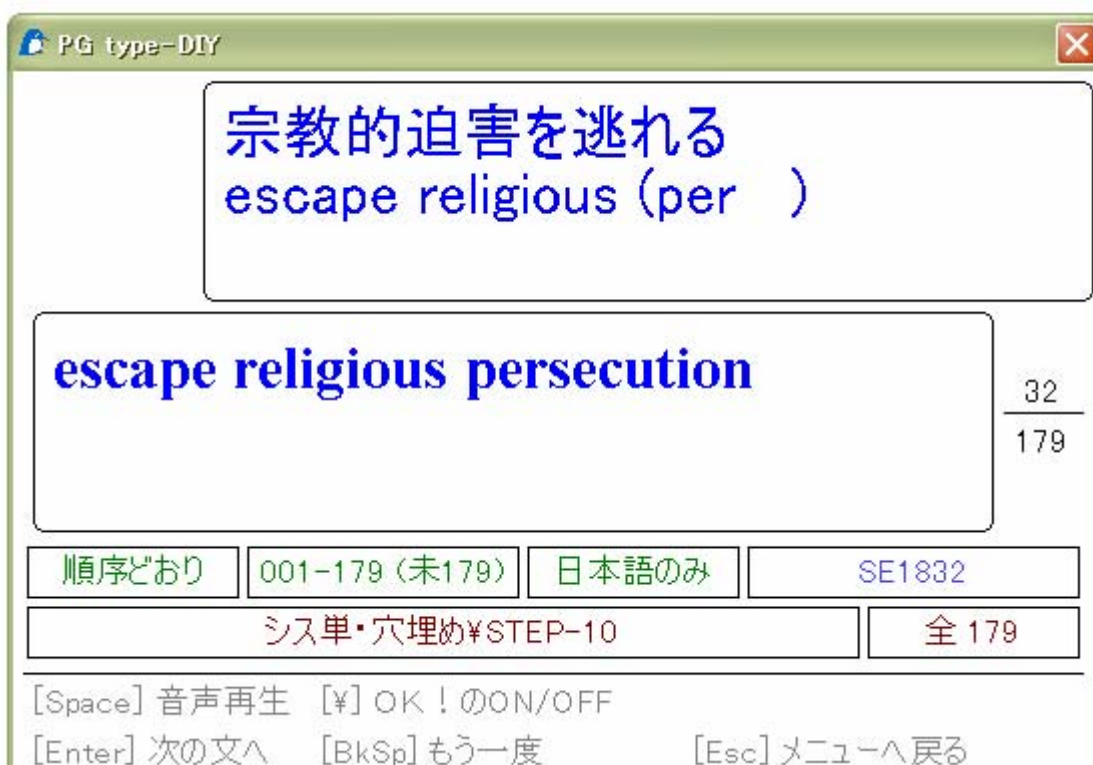
ところが、何回目かの改訂後の打鍵テストのときに、問題ファイルの中に誤って  
入力した [タブ] を、ソフトが文字と勘違いして [矢印マーク] として表示するバグが  
あることに気づきました。

つまり、ソフトが同じ空白なのに、[半角スペース]と[タブ]を別のものとして認識  
するのです。

このとき、「ひょっとしたら」と思って、PG さんに問題のテキストファイルに  
[タブ]を入れたら改行扱いになるようにプログラムできないかと提案しましたところ、  
すぐに可能だという返事が来て、次の画面のように、和訳と穴空き英文を 2 段に分け

て表示できるようになったのです。  
この穴空き英作は、次のように使います。

- (1) 表示／音声の設定を「日本語のみ」に設定します。
- (2) 最初に和訳と穴空き英文が表示されますが、音声は流れませんので、口頭でミニフレーズを再現した後、[Enter]キーを押して正解を表示させると同時に音声を再生させます。
- (3) 音声の聞き直しは、通常どおり [Space]キーで可能です。



## [4] 穴空き英作機能の効率化

「タブ改行」の実現で、穴空き英作のトレーニングができるようになったのですが、PG type はもともとディクテーションソフトですから、英文を打鍵しないと、「履修済」を意味する「OK 状態」の記録がソフトに残らない設計になっています。

打鍵せずに「履修済=OK 状態」の記録を残しながら、記憶が曖昧な問題だけを再履修するには、次の操作が必要になり面倒です。

(A) 口頭で穴空き英作ができたとき

[Enter] → 正解表示と音声の再生

→ [Yキー] → OK 登録 → [Enter]で次問へ進む

(B) 穴空き英作ができなかったとき

[Enter] → 正解表示と音声の再生 → [Enter]で次問へ進む

そこで、PG type-A の改訂版で新設された「一括クリア」機能と同様の「一括 OK/クリア」機能を PG type-DIY に搭載することと、[Yキー]に「個別 OK/OK 解除」機能にプラスして、[Enter]キーと同じ「次へ進む」という機能を持たせて頂くようお願いして実現して頂きました。

(これも、明け方まで作業をやって頂いたようで、PG さんの睡眠時間をまた奪ってしまいました.....)

そして、機能の追加によって、次のような効率的なトレーニングが可能になったのです。(A) (B) いずれの方法によるかは、覚えているフレーズの数にもよりますが、穴空き英作ができるレベルに達している子は相当実力のある子ですから、大抵は、(A) の方法を選択するのではないかと予想しています。

(A) 最初に「一括 OK」の登録をします。

この場合は、「順序どおり」モードでトレーニングします。

[Enter] → 正解表示と音声の再生 → [Yキー] → OK 解除+次問へ進む

[Enter] → 正解表示と音声の再生 → [Enter] → 次問へ進む

全問終わった後に、「未履修のみ」モードで OK が解除されていない問題のみを再履修します。

(B) 通常どおり「全問未履修」状態で学習する

この場合は、「未履修のみ」モードでトレーニングします。

[Enter] → 正解表示と音声の再生 → [Yキー] → OK 記録+次問へ進む

[Enter] → 正解表示と音声の再生 → [Enter] → 未履修のまま次問へ進む

全問終わった後に、「未履修のみ」モードで OK が記録されていない問題のみを再履修します。

## [5] TOEIC Part-2

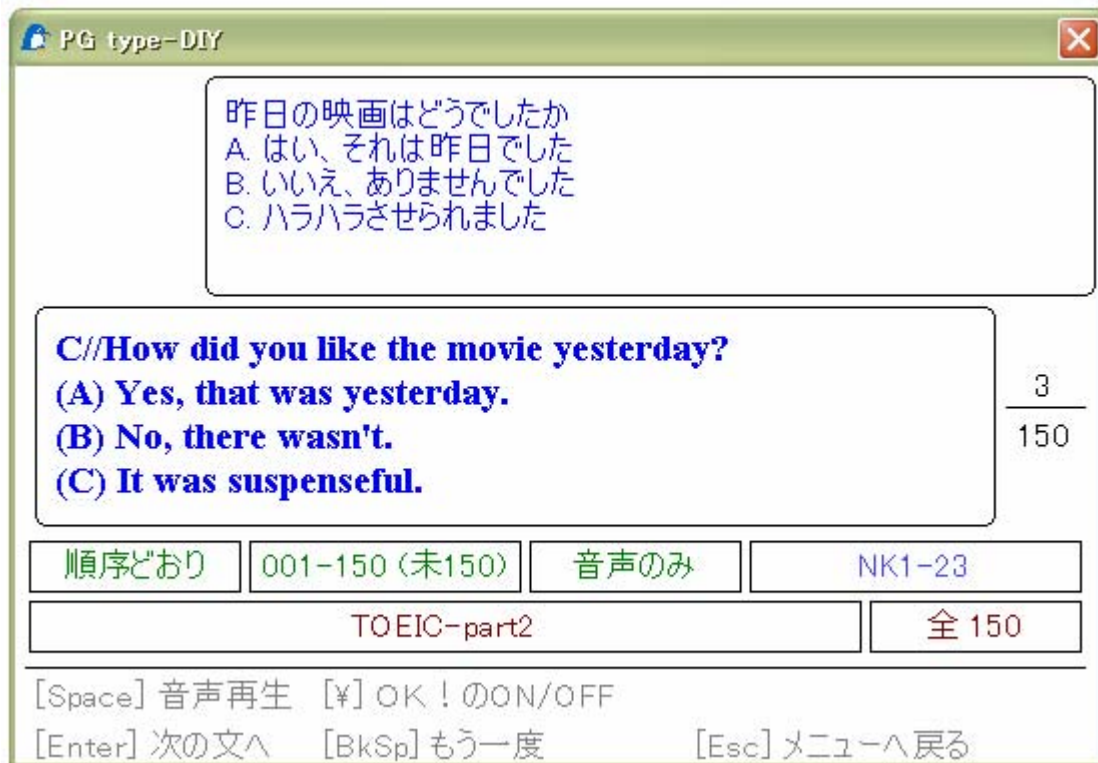
TOEIC Part-2 の問題だけは、TOEIC のリスニングで満点が取れるようになってからも苦手意識が抜けない Part でしたし（大昔の話です。最近を受けてません）、高校生に教える手伝いをしている大学生も苦手になっている Part ですので、何とかソフト化できないかと願っていたのですが、「文字の拡大・縮小」「タブ改行」、そして、「ダブル・スラッシュによる打鍵終了扱い」と、3つの改訂をして頂いたお陰で、Part 2 のトレーニングが可能になりました。

具体的なトレーニング方法は、次の通りです。

- (1) [音声のみ] モードでトレーニングします。
- (2) [Space]キーで何度でも聞き直しができます。
- (3) 正解の選択肢の文字（見本の画面だと「C」の文字）を打鍵すると2個のスラッシュ以降の英文全部を打鍵したものとみなされて、OK登録がされます。

ただ、問題ファイルを作成するときには注意しなければならないのは、英文が表示される下のウィンドウは、できるだけ多くの文字が表示できるように英文専用の文字である Times New Roman に設定されているため、英文欄に日本文字を配置すると文字化けして「象形文字」のような模様が表示されてしまうということです。

現在、PG さんには、英文専用文字と日本文字を同時に表示できる方法を研究していただいています。解決策をご存知の方は、是非 PG さんに連絡してあげてください。



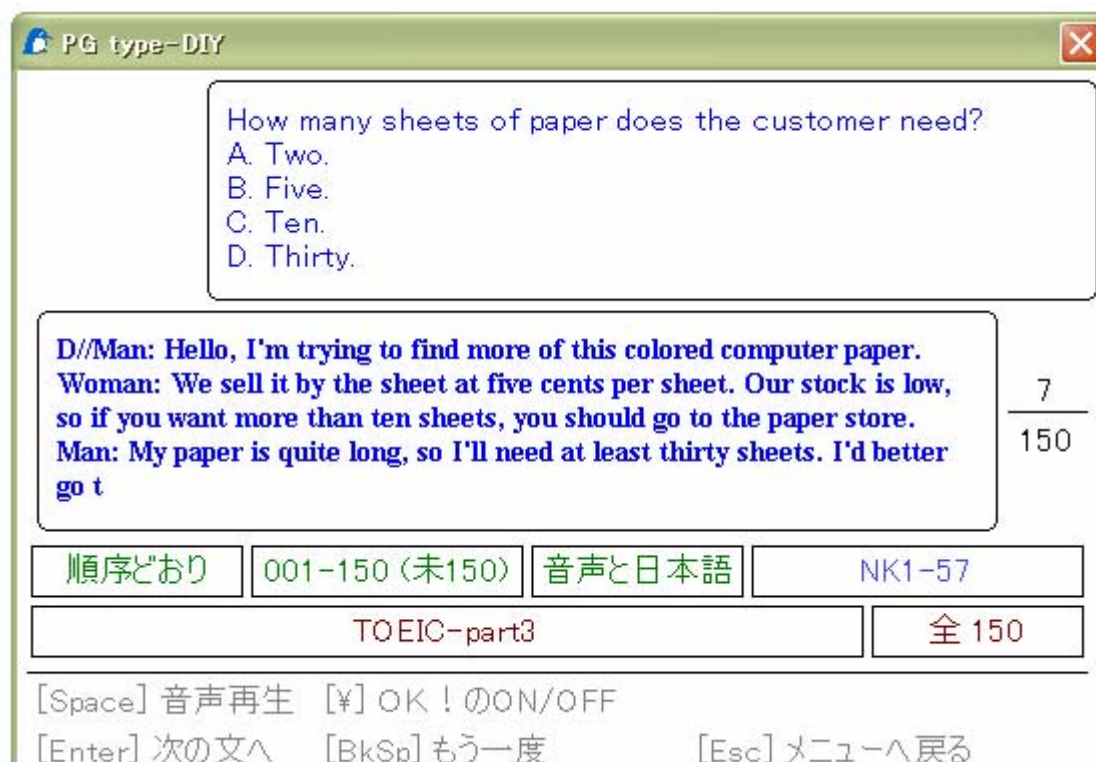
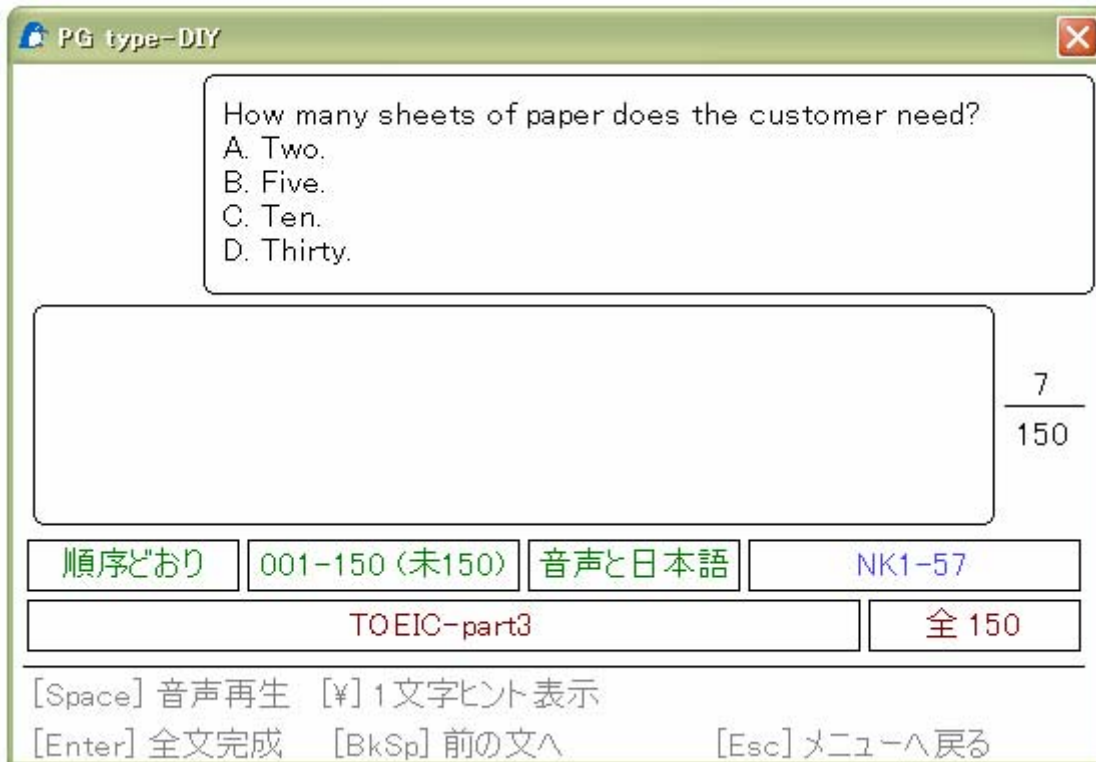
↑↑↑

改訂版がアップロードされた日の夜に、眠っていた市販のソフト付き問題集から、Part 2 の問題だけを抽出して、一晩で 150 問の問題を作っていました。

## [6] おまけで、TOEIC Part-3

Part 3 の問題も、次のような設定でトレーニングすることが可能です。  
でも、文字数制限のため、スクリプト全文が表示できないことがあります。

- (1) [音声と日本語] モードにします。
- (2) Part 2 同様、正解の選択肢の文字（見本の画面だと「D」の文字）を打鍵すると 2 個のスラッシュ以降の英文全部を打鍵したものとみなされて、OK 登録がされます。



↑↑↑

スクリプトの全文が表示されません。

## [7] パクン英検

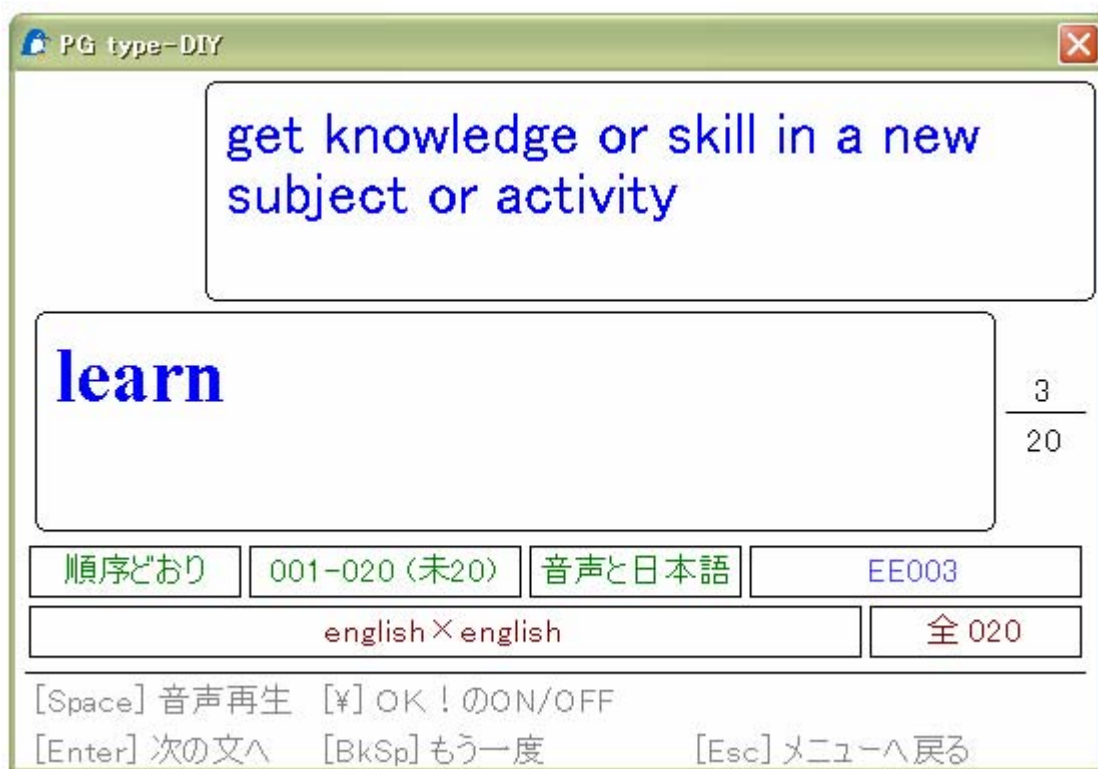
Linkage Club から最近出版された **english×english** という本のデータを活用すると、下の画面のような「パクン英検」問題が約 800 問ほど作れます。

[音声のみ] モードにして、流れて来る英文で定義される単語を打鍵するという単純なものです。ただ、テキストデータを入力するのが面倒だったので、20 問試作してやめました。

Linkage Club さ～ん、是非、PG type-DIY 用にテキストデータをアップロードして下さい。

それと、もうひとつ。**english×english** 付属の CD の音声は超スローなので、**Sound Forge** というソフトを使って ピッチを変更せずに再生時間が 80%になるように音声を加工せざるを得ませんでした。

Linkage Club さ～ん、**natural speed** の音声もアップして下さい。



## [8] 居眠り剣法ならぬ「居眠り打鍵法」

PG さんが PG type-DIY をリリースされてから約 40 日の間に、以下のギャビル本に収録されているデータを使ってテスト打鍵をしました。

- (1) システム英単語 (約 2600 フレーズを 2 回=約 5200 フレーズ)
- (2) 英単語ピーナツ (3 冊で 2331 フレーズ)
- (3) フレーズで覚える TOEIC TEST 必修単語 1600 (収録は 3200 フレーズ)
- (4) TOEIC TEST によく出るレベル順英単語 2000 (2000 フレーズ)
- (5) フレーズチェック式 最短! 3000 英単語 (本日現在、2000 フレーズ打鍵終了)

ん??.....ということは、たった 40 日で約 15,000 フレーズを打鍵してしまったということですよ〜 (我ながら、唾然.....)



これらのテキストデータは、過去4年ぐらいかけてOCRなどを使って入力していたものの「一部」ですが、PG type-DIYのおかげで一気に花を咲かせたという感じ  
です。

ALL IN ONEのような長文だと、居眠りしながらのディクテーションは不可能  
ですが、この手のミニフレーズ型のポキヤビル本のコンテンツだと、こっくりこっくり  
と居眠りしながら、目をつぶったままで英文が聞こえてくる通りに打鍵すればいいんで、  
とても「楽ちん」なんです。

睡眠学習ならぬ「居眠り学習」ができますので、どんなに疲れていても大丈夫  
ですよ。

居眠り打鍵をすることで、ミニフレーズが自然に口をついて出てくるようになれば  
しめたもの。英作文だって、ヘッチャラになるかもしれませんね。

以上 by cousin

\*\*\*\*\*